

2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年7月31日

上場会社名 オークマ株式会社
 コード番号 6103 URL <http://www.okuma.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2019年8月7日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東 名
 TEL 0587-95-7822

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	40,826	△16.2	4,117	△31.2	4,342	△33.4	2,784	△25.1
2019年3月期第1四半期	48,706	32.4	5,987	82.5	6,520	80.2	3,717	52.5

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 2,614百万円 (16.9%) 2019年3月期第1四半期 2,236百万円 (△45.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	88.19	—
2019年3月期第1四半期	115.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	231,097	169,140	70.2
2019年3月期	237,720	168,580	68.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 162,116百万円 2019年3月期 161,725百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	60.00	—	65.00	125.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	65.00	—	65.00	130.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	100,000	△0.4	11,500	△6.0	11,700	△10.8	7,800	△2.4	247.05
通期	201,000	△5.1	24,000	△13.0	24,500	△13.1	16,300	△12.0	516.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期1Q	33,755,154 株	2019年3月期	33,755,154 株
2020年3月期1Q	2,182,165 株	2019年3月期	2,182,009 株
2020年3月期1Q	31,573,044 株	2019年3月期1Q	32,077,383 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
3. その他	9
(1) 受注及び販売の状況	9
(2) 海外売上高	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米中貿易戦争の先行き懸念などにより、景気の減速感が強まりました。世界経済に大きな影響を及ぼす中国においても、金融引き締めにより経済成長が鈍化する中、米中貿易戦争の影響により景気の悪化が進みました。わが国経済も、こうした海外経済の減速により弱い動きとなりました。

工作機械の需要動向につきましては、米国市場では、これまで堅調な水準を維持してきましたが、米中貿易戦争など保護主義的な通商政策の影響もあって、緩やかな減少傾向が見られました。中国市場では、米中貿易戦争の行く末が見定まらない中、投資に対して慎重な姿勢が見られ、需要は大きく減少しています。欧州市場についても同様に、工作機械の需要は弱い動きが続きました。

国内市場では、建設機械関係等からの需要は底堅く推移する一方、自動車や一般機械などは設備投資に対して慎重な動きとなりました。

このような経営環境の下、当企業グループはAI・知能化技術を搭載したスマートマシンの提供や、生産性向上に寄与するスマートマニュファクチャリング技術・製品の提案を進め、受注・売上・収益の拡大に努めてまいりました。

営業戦略におきましては、中国国際工作機械展覧会「CIMT2019（北京、2019年4月開催）」等、世界各地で開催された展示会に出展し、当社独自の知能化技術、自社開発の革新的なロボットを組み込んだスマートマシンを出品すると共に、IoTを駆使して工場全体の最適化を図るスマートマニュファクチャリングを提案し、当企業グループが提供する「最高のものづくりサービス」を強力にアピールしました。

技術戦略におきましては、生産性向上に貢献するスマートマシン、そして自動化技術の開発を推進してまいりました。高精度・高機能、工程集約でリードタイムを短縮する5軸制御マシニングセンタや複合加工機等のスマートマシンのラインアップ強化、工作機械をつなぎ、工場の稼働実績、加工状況を見える化し分析して、顧客の生産性向上を支援するIoTソリューション「Connect Plan」等の開発強化を図りました。また、労働力不足により自動化、無人化の指向が高まる中、中小企業においても導入が容易な次世代ロボットシステム「ARMROID」のシリーズ化に向けた商品化開発に注力してまいりました。

製造戦略におきましては、2019年5月に可児工場において、最新鋭のスマートファクトリーDS3（Dream Site3）を竣工しました。これまでのノウハウを積み上げたスマートファクトリーを可児工場に展開し、立形・横形マシニングセンタの自己完結一貫生産、超高効率生産を実現します。これまで課題であった部材や鋳物の調達問題の解消を図ると共に諸施策を展開し、生産効率の向上、生産力の強化、コストダウンを推し進めます。

これらの事業戦略を確実に実行してまいりました結果、当第1四半期連結累計期間の連結受注額は348億89百万円（前年同四半期比38.7%減）、連結売上高は408億26百万円（前年同四半期比16.2%減）、営業利益は41億17百万円（前年同四半期比31.2%減）、経常利益は43億42百万円（前年同四半期比33.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は27億84百万円（前年同四半期比25.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間における総資産は、前連結会計年度末と比較して66億22百万円減少し、2,310億97百万円となりました。主な要因は「受取手形及び売掛金」の減少120億13百万円、「現金及び預金」の減少82億41百万円、「たな卸資産」の増加68億64百万円、及び「建物及び構築物」の増加46億81百万円などによるものです。また、負債は前連結会計年度末と比較して、71億83百万円減少いたしました。主な要因は「未払法人税等」の減少32億74百万円、「賞与引当金」の減少17億43百万円、及び「支払手形及び買掛金」の減少12億74百万円などによるものです。純資産は、「その他有価証券評価差額金」の増加3億6百万円、「利益剰余金」の増加7億32百万円、及び「為替換算調整勘定」の減少7億5百万円などにより、5億60百万円の増加となりました。この結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は70.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の世界経済の見通しにつきましては、米中貿易戦争等、海外情勢の先行き不透明感によって、景気の減速傾向が続くものと予想されます。しかし、構造的な労働力不足への対応として、自動化・無人化の設備投資はグローバルに根強く、また競争力強化や成長分野への投資、次世代技術の研究開発投資に対する意欲は強く、工作機械市況は底堅く推移することが見込まれます。

米国市場では、米中貿易戦争の先行きを懸念し、設備投資に力強さは欠くものの、堅調な経済情勢を背景に、幅広い産業から工作機械の需要が見込まれます。中国市場では、景気対策の効果が発現し、工作機械の需要は緩やかな回復に向かうことが期待されます。欧州市場では、中国経済の回復に伴い、市況は緩やかに持ち直すことが期待されます。

国内市場では、力強さを欠く世界経済が設備投資に影響を及ぼすものの、自動化、無人化への投資、国際競争力強化への投資が牽引し、工作機械の需要は底堅く推移すると見込まれます。

このような経営環境の下、当企業グループは、生産性向上を図る技術・製品・サービスの提供により、最高の「ものづくりサービス企業」を目指してまいります。

営業戦略におきましては、中国、インド等に開設した新たな販売・サービス拠点を活用し、オークマブランドの浸透と顧客開拓を図り、潜在需要の大きいアジアにおける販売拡大に注力してまいります。また、国内、海外の展示会に積極的に参加し、統一されたブランドメッセージ「OPEN POSSIBILITIES」を展開して、オークマの強み「機電情知融合」が実現する顧客の付加価値向上を強力にアピールし、顧客基盤の拡大を図ってまいります。

技術戦略におきましては、独自のAI・知能化技術を搭載したスマートマシンの開発を更に進め、またIoT、AIを活用したスマートマニュファクチャリング技術の強化を図り、ものづくりサービスの提供を進めてまいります。次世代ロボットシステム「ARMROID」のシリーズ化を強力に進め、グローバルに広がる自動化・無人化の需要に幅広く応えてまいります。

製造戦略におきましては、スマートファクトリーDS3を迅速にフル稼働させ、可児工場における立形・横形マシンニングセンタの自己完結一貫生産を実現します。本社のDS1、DS2と合わせて、新生産管理システム、新物流管理システムを全工場へ適用し、生産効率の向上、リードタイムの短縮を図ります。海外では、台湾の生産子会社「大同大隈股份有限公司」において第2期の新工場建設に着手し、世界的に需要が高まっているプレミアム・エコ「GENOSシリーズ」のNC旋盤及び立形マシンニングセンタの更なる生産能力の増強を図ってまいります。さらに、江蘇省常州市の生産子会社である「大隈（常州）机床有限公司」において「GENOSシリーズ」の短納期対応、価格競争力向上、エンジニアリング力強化を図り、中国市場で拡大する需要に対応していきます。

これらの取り組みにより、当企業グループの成長戦略を推し進めてまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	61,222	52,981
受取手形及び売掛金	45,178	33,164
電子記録債権	801	686
たな卸資産	54,615	61,480
その他	5,056	6,642
貸倒引当金	△154	△149
流動資産合計	166,720	154,806
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,081	25,762
リース資産（純額）	981	865
その他（純額）	20,589	20,971
有形固定資産合計	42,652	47,599
無形固定資産		
無形固定資産	3,534	3,428
投資その他の資産		
投資有価証券	21,808	22,381
その他	3,044	2,921
貸倒引当金	△40	△40
投資その他の資産合計	24,812	25,262
固定資産合計	70,999	76,290
資産合計	237,720	231,097

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,880	17,605
電子記録債務	15,735	15,955
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
リース債務	923	808
未払法人税等	5,541	2,267
賞与引当金	3,325	1,581
役員賞与引当金	141	31
製品保証引当金	344	317
その他	11,652	11,060
流動負債合計	61,545	54,627
固定負債		
社債	5,000	5,000
リース債務	25	9
退職給付に係る負債	1,035	851
その他	1,532	1,469
固定負債合計	7,594	7,329
負債合計	69,139	61,956
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,000	18,000
資本剰余金	41,718	41,718
利益剰余金	107,851	108,583
自己株式	△9,858	△9,858
株主資本合計	157,711	158,443
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,946	7,253
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	△1,507	△2,212
退職給付に係る調整累計額	△1,425	△1,366
その他の包括利益累計額合計	4,013	3,673
非支配株主持分	6,855	7,024
純資産合計	168,580	169,140
負債純資産合計	237,720	231,097

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	48,706	40,826
売上原価	33,757	27,865
売上総利益	14,949	12,961
販売費及び一般管理費	8,961	8,843
営業利益	5,987	4,117
営業外収益		
受取利息	52	68
受取配当金	332	329
為替差益	100	-
その他	118	146
営業外収益合計	603	544
営業外費用		
支払利息	15	13
為替差損	-	201
その他	56	104
営業外費用合計	71	319
経常利益	6,520	4,342
特別損失		
投資有価証券売却損	664	-
工場再構築費用	-	306
特別損失合計	664	306
税金等調整前四半期純利益	5,856	4,036
法人税等	1,945	1,119
四半期純利益	3,910	2,916
非支配株主に帰属する四半期純利益	192	132
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,717	2,784

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	3,910	2,916
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,458	306
繰延ヘッジ損益	△3	△0
為替換算調整勘定	122	△666
退職給付に係る調整額	15	59
持分法適用会社に対する持分相当額	△350	-
その他の包括利益合計	△1,673	△301
四半期包括利益	2,236	2,614
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,250	2,444
非支配株主に係る四半期包括利益	△13	170

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	日本	米州	欧州	アジア・パ シフィック	計		
売上高							
外部顧客への売上高	23,772	13,888	7,705	3,339	48,706	—	48,706
セグメント間の内部売上高 又は振替高	15,430	14	48	2,396	17,889	△17,889	—
計	39,202	13,902	7,754	5,736	66,596	△17,889	48,706
セグメント利益	3,777	966	420	488	5,652	335	5,987

(注) 1. セグメント利益の調整額335百万円は、未実現利益の消去他であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	日本	米州	欧州	アジア・パ シフィック	計		
売上高							
外部顧客への売上高	18,849	11,962	6,513	3,499	40,826	—	40,826
セグメント間の内部売上高 又は振替高	16,898	15	21	3,255	20,191	△20,191	—
計	35,748	11,978	6,535	6,755	61,017	△20,191	40,826
セグメント利益	3,489	512	319	435	4,756	△638	4,117

(注) 1. セグメント利益の調整額△638百万円は、未実現利益の消去他であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他

(1) 受注及び販売の状況

①受注状況

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高
NC旋盤	14,911	21,575	8,693	22,784
マシニングセンタ	27,135	44,424	16,420	35,776
複合加工機	12,983	11,909	7,695	11,016
NC研削盤	1,006	1,313	1,126	2,128
その他	854	754	953	904
合計	56,892	79,975	34,889	72,611

(注) 受注高、受注残高には消費税等は含まれておりません。

②販売実績

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	
	売上高	構成比(%)	売上高	構成比(%)
NC旋盤	10,850	22.3	9,852	24.1
マシニングセンタ	26,053	53.5	18,851	46.2
複合加工機	10,162	20.9	9,709	23.8
NC研削盤	902	1.8	1,335	3.3
その他	737	1.5	1,078	2.6
合計	48,706	100.0	40,826	100.0

(注) 売上高には消費税等は含まれておりません。

(2) 海外売上高

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

	米国	その他 米州	欧州	中国	その他 アジア・パ シフィック	計
I 海外売上高(百万円)	11,295	2,613	7,715	6,460	2,518	30,602
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	—	—	48,706
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	23.2	5.4	15.8	13.2	5.2	62.8

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

	米国	その他 米州	欧州	中国	その他 アジア・パ シフィック	計
I 海外売上高(百万円)	10,188	1,704	6,673	4,738	3,819	27,125
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	—	—	40,826
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	25.0	4.1	16.3	11.6	9.4	66.4